

Express5800/MW300f,MW500f
(N8100-1460,1461)
パッチ適用手順書

本書は、Express5800/MW300f,MW500f(N8100-1460,N8100-1461)の運用/管理者を対象にした、パッチ適用に関する手順書です。
(Management Consoleの使用方法は、マニュアルなどをご覧ください)

2008/7/7 第1版

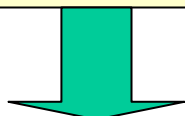
NEC

目次

・パッチ適用の基本手順 3
・アップデートモジュール適用時の注意・制限事項 4
・オンラインアップデートでの適用方法 7
・オンラインアップデート以外での適用方法 12
・参考資料	
バックアップ手順 17
バックアップ例1 : Windowsマシンへの定期バックアップ 18
バックアップ例2 : Windowsマシンへの即時バックアップ 20
バックアップ例3 : テープデバイスへの定期バックアップ 22
バックアップ例4 : テープデバイスへの即時バックアップ 24
バックアップの補足事項 27

パッチ適用の基本手順

環境保存(バックアップ)



オンラインアップデート
での適用



オンラインアップデート
以外での適用

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(1/3)

(1)共通の注意、制限事項

- ・アップデートモジュールは、必ず、公開された順番で適用して下さい。
- ・オンラインアップデートでは1モジュール毎に再起動が必須です。
- ・オンラインアップデート以外の方法では、すべてのアップデートモジュールを適用した後に再起動が必要になります。

(2)ロードバランスクラスタ構成での注意・制限事項

- ・マスタ、スレーブの順で、すべての本装置へ適用して下さい。
- ・マスタへの適用前に、マスタのManagement Consoleに接続し、システム>ロードバランス 画面にて、ミラーリング間隔に "NO"を設定して下さい。
- ・適用前に、サービス画面の[停止]ボタンにて、各種サービスを停止して下さい。
TELNET、FTP、サービス監視(chksvc)サービス以外のサービスについては、再起動により、元の起動状態に戻ります。
- ・適用後に、マスタから先にシステムの再起動を行って下さい。
スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。
- ・すべての本装置へアップデートモジュールを適用した後に、システム>ロードバランス画面にて、ミラーリング間隔を設定して下さい。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(2/3)

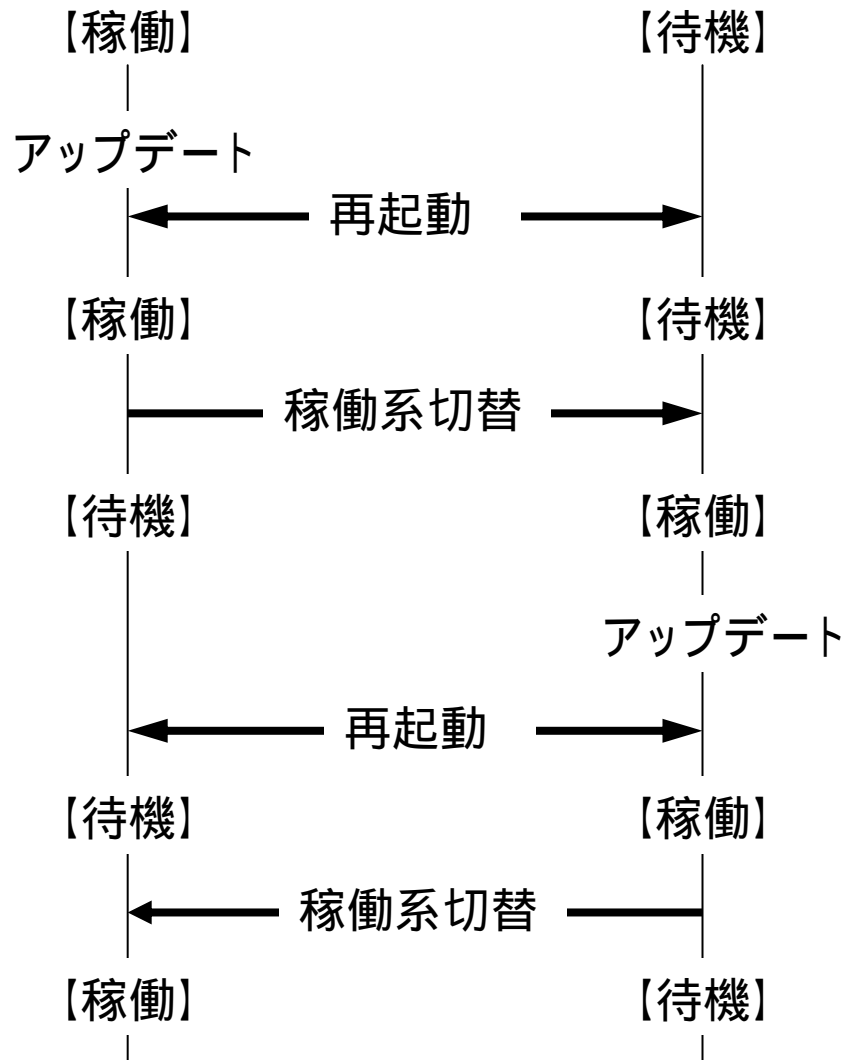
(3)フェイルオーバークラスタ構成での注意・制限事項

- ・アップデートモジュールは、稼働系の状態でのみ適用可能です。待機系サーバへ適用する場合は、一旦、系の切り替えを行い、稼働系にした後、適用を行って下さい。
- ・オンラインアップデートで適用する場合は、適用後に、稼働系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
コマンドで適用する場合は、すべてのアップデートモジュールを適用した後に、稼働系サーバの状態のまま、システムの再起動を行って下さい。
どちらの場合も、CLUSTERPRO Webマネージャから再起動を行って下さい。
なお、稼働系サーバを再起動する際、同時に待機系サーバも再起動して下さい。

フェイルオーバークラスタ構成時の適用イメージは、次ページのとおりです。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項(3/3)

フェイルオーバークラスタ構成時の適用イメージ



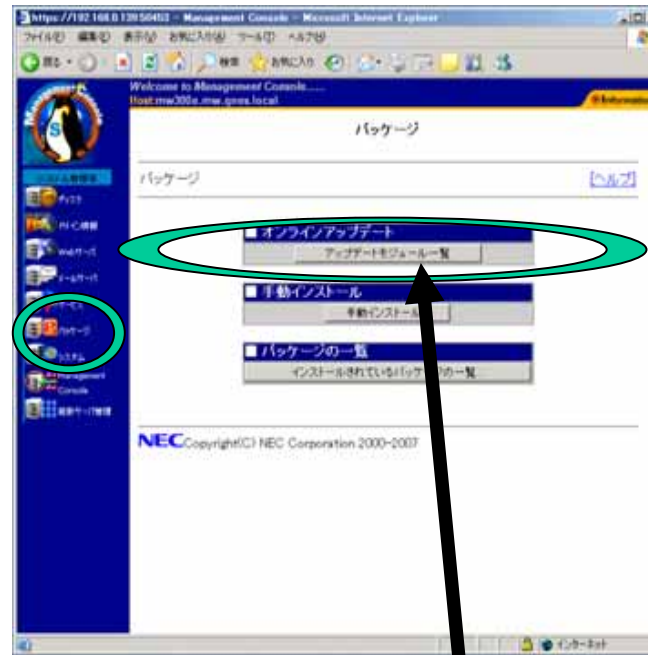
再起動は、CLUSTERPRO Webマネージャから「クラスタシャットダウン」で行います。以降も同様です。

稼働系の切替は、CLUSTERPRO Webマネージャから行います。以降も同様です。

オンラインアップデートでの適用(1/5)

適用可能なアップデートモジュールの一覧を確認します。
Management Console でパッケージをクリックし、[オンラインアップデート]の[アップデートモジュール一覧]ボタンをクリックして下さい。

パッケージ



[アップデートモジュール一覧]
ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(2/5)

初めてオンラインアップデートを利用する場合、また公開モジュールの最新情報を取得する場合は基本サポートサービスのサポート契約の認証情報の入力が必要です。

公開モジュールの内、セキュリティ、および、不具合修正に関するものはサポート非契約者にも提供されます。サポートご契約がないお客様は[認証しない]ボタンを押して下さい。



認証情報を入力して[送信]、
もしくは[認証しない]

オンラインアップデートでの適用(3/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュール情報から適用可能なアップデートモジュールの一覧を表示します。未適用のモジュールには「適用」欄に「未」と表示されます。

適用したいモジュールの[適用]ボタンを押すと適用確認画面が表示されます。

最終更新日付: 2008/07/01

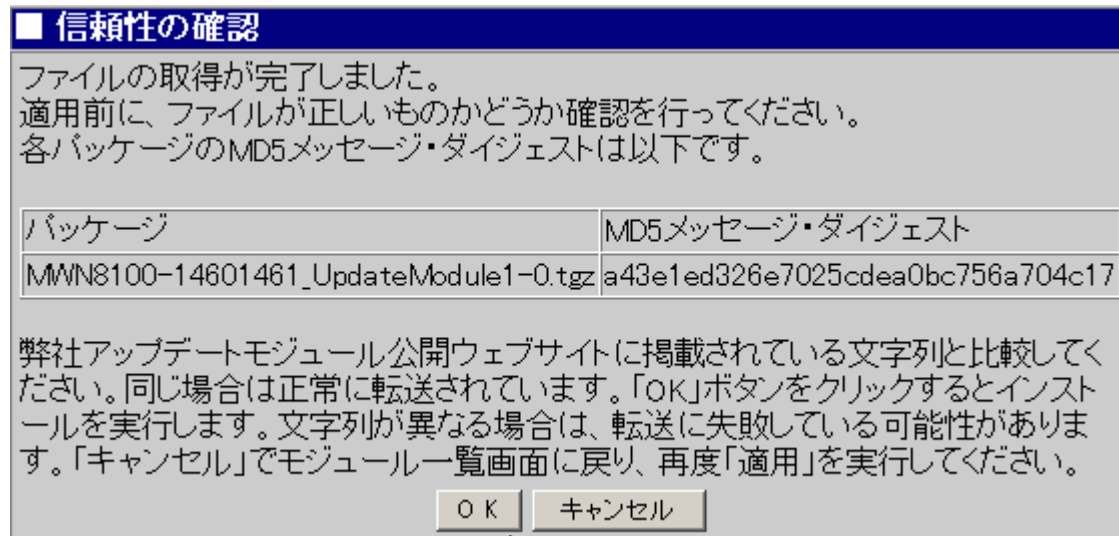
最新情報に更新

■ アップデートモジュール一覧				
日付	概要	パッケージ名	適用	操作
2008/7/1	Express5800/MM300F(N8100-1460)、Express5800/MM500F(N8100-1461)アップデートモジュール Rel1.0 をリリースします。	N8100-1460_N8100-1461_UpdateModule-1.0	未	<input type="button" value="適用"/>

適用したいモジュールの
[適用]ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(4/5)

ネットワーク経由で取得した公開モジュールのパッケージの信頼性の確認を行って下さい。アップデートモジュール公開サイトに掲載されているメッセージダイジェスト文字列と画面に表示されるメッセージダイジェスト文字列が一致する事を必ず確認してから[OK]ボタンを押して下さい。[OK]ボタンを押すとアップデートモジュールが実際に適用されます。



MD5 文字列を確認してから
[OK]ボタンをクリック

オンラインアップデートでの適用(5/5)

[戻る]ボタンを押して下さい。アップデートモジュールは、システムを再起動することにより適用されます。Management Consoleからシステムを再起動して下さい。ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先にシステムを再起動して下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行ってください。フェイルオーバークラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャの「クラスタシャットダウン」でシステムを再起動して下さい。
「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPROの「CLUSTERPROシステム構築ガイド リファレンスガイド」を参照して下さい。

■ 操作結果通知

アップデートモジュール Rel 1.0 の適用を完了するには再起動を行う必要があります。再起動せずに別のアップデートモジュールを適用すると、アップデートモジュールが正しく適用されませんので必ず再起動してください。
フェイルオーバークラスタ構成の場合には、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行ってください。

戻る

[戻る]ボタンをクリック

オンラインアップデート以外での適用(1/4)

オンラインアップデートで適用されない場合は、適用するアップデートモジュールを本装置にダウンロードし、コマンドを実行して適用します。なお、複数のアップデートモジュールを適用する場合、アップデートモジュール毎に格納用ディレクトリを作成し、別々に格納して下さい。同じディレクトリ配下にすべてのアップデートモジュールを格納し適用を行った場合、アップデートモジュールの適用が正常に行えません。

ダウンロードしたアップデートモジュールは、お客様自身が、本装置の /tmp に作成したディレクトリ配下にあるものとします。/tmp 以外にアップデートモジュールを置いた場合は、実際のディレクトリに読み替えて下さい。

- (1)本装置に telnet します(login 名:admin)。なお、フェイルオーバークラスタ構成の場合、稼働系サーバに telnet します。
ログイン後、su コマンドで root 権限を取得します。

オンラインアップデート以外での適用(2/4)

- (2)お客様自身が /tmp に作成したディレクトリ配下へ移動後、以下のコマンドを実行し、アップデートモジュールを解凍します。アップデートモジュールが複数ある場合は、各ディレクトリ配下へ移動し、解凍を行って下さい。

```
# cd /tmp/お客様が作成した各ディレクトリ名  
# tar -xzf アップデートモジュールファイル
```

- (3) (お客様作成の)各ディレクトリ配下に以下のファイルが作成されます。

- ・MailWebServer_UpdateModule.pl
- ・InstallFileList.txt
- ・MailWebServer_UpdateRPM.tgz
- ・onlineupdate-1.x.sh (x は、バージョンによって異なります)

- (4) サービスの停止

Management Console の[サービス]画面から telnet 以外のすべてのサービスを停止させます。但し、**フェイルオーバークラスタ構成**の場合は、**クラスタプロ (CLUSTERPRO X)**サービスは**停止しない**で下さい。

オンラインアップデート以外での適用(3/4)

(5) アップデートモジュールの適用

各ディレクトリ配下にて以下のコマンドを実行します。

```
# perl MailWebServer_UpdateModule.pl
```

コマンドの実行は、telnet から root 権限で行って下さい。
コマンドを実行するとパッケージがインストールされます。
必ず、公開された順番で適用を行って下さい。

(6) システムの再起動

すべてのアップデートモジュールを適用した後に、システムを再起動します。
ロードバランスクラスタ構成の場合は、必ず、マスタから先に再起動を行って下さい。スレーブの再起動は、マスタの起動を確認した後に行って下さい。
フェイルオーバークラスタ構成の場合は、必ず、CLUSTERPRO Webマネージャから、「クラスタシャットダウン」で再起動を行って下さい。
「クラスタシャットダウン」の方法については、CLUSTERPRO の
「CLUSTERPROシステム構築ガイドリファレンスガイド」を参照して下さい。

オンラインアップデート以外での適用(4/4)

(7) 稼働系切替(フェイルオーバークラスタ構成時)

フェイルオーバークラスタ構成以外の場合、(8)に進んで下さい。

CLUSTERPRO Webマネージャにて稼働系の切り替えを行って下さい。

切替後の稼働系サーバにて、(1)～(6)の作業を行って下さい。

(1)～(6)を実施後、再度、稼働系の切り替えを行って下さい。

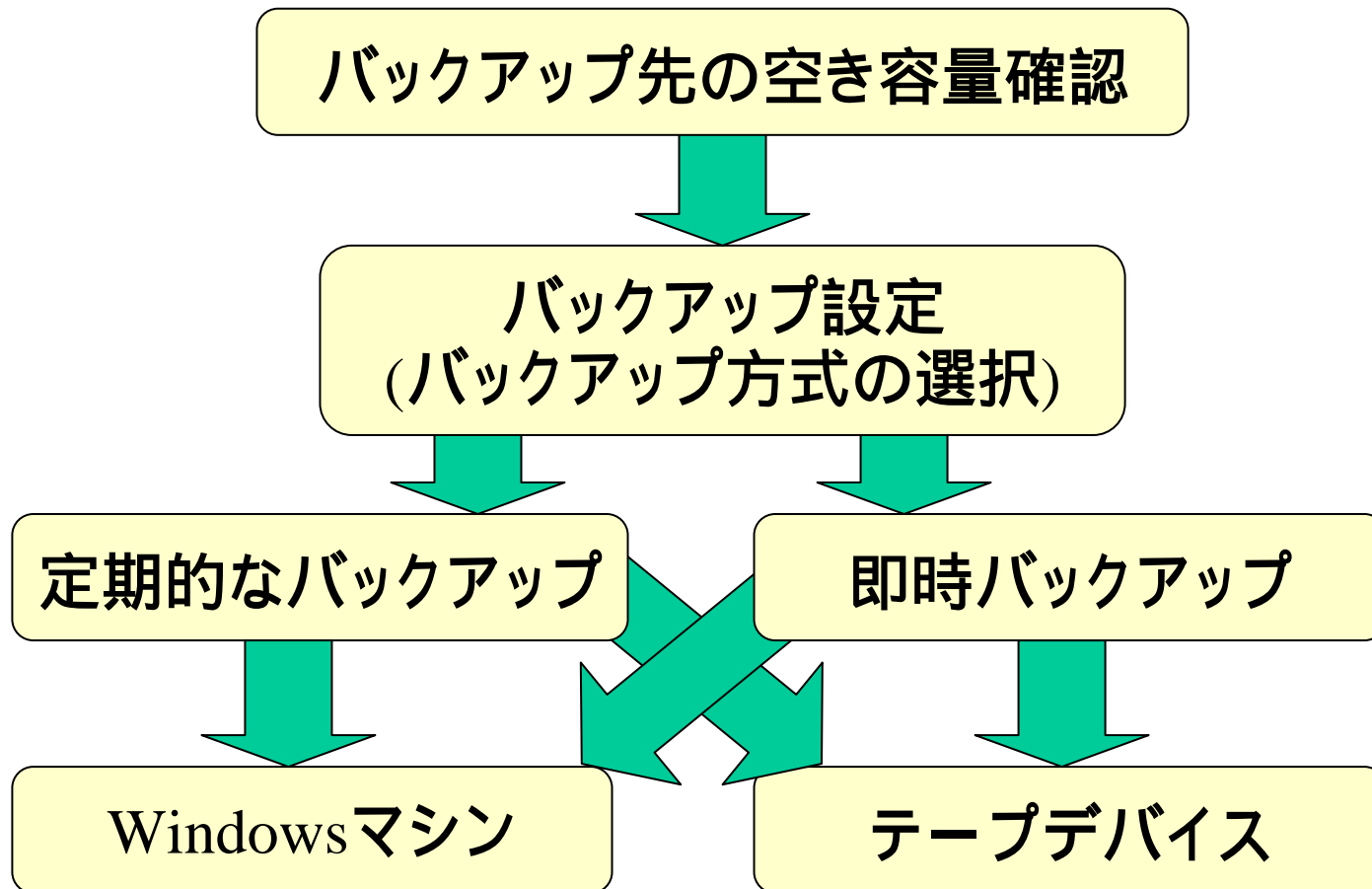
(8) サービスの起動

Management Console の[サービス]画面からサービスを必要に応じて起動します。

参考資料

アップデートモジュールを適用する前に、バックアップを行って頂く必要があります。アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻すこととなった場合、システムの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、バックアップを行って下さい。また、バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。次ページ以降を参考に、運用形態に合った方法でバックアップを行って下さい。バックアップについては、ユーザズガイド、Management Console のヘルプにも詳しい説明がございますので、本手順書と合わせて参照して下さい。

バックアップ手順



バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(1/2)

1. Windows マシンの共有フォルダの作成

例: ネットワークで接続されたWindowsマシン「winpc」上に「user」というユーザーを用意し、「share」という共有フォルダを作成する。

2. Management Consoleによる設定(1/2)

Management Consoleで以下の順にクリックして下さい。



システム

編集

バックアップ / リストア

バックアップリスト一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプूल	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ テープリストア			バックアップしない

バックアップ例1: Windowsマシンへの定期バックアップ(2/2)

2. Management Consoleによる設定(2/2)

以下の内容を入力して下さい。

世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。バックアップファイルは5 世代分残す。

Windowsマシンの設定

「Samba」をチェックし、Windowsマシンに接続するための設定を行う。

例: ワークグループ名「workgroup」、マシン名「winpc」、共有名「share」、ユーザ名「user」、パスワード「*****」

The screenshot shows the 'Edit' window of the Management Console. It contains the following fields and options:

- 説明:** システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
- 世代:** 5
- スケジュール:** ☒ 毎週 (Month: 月曜日)
- 時刻:** 9 時 0 分にバックアップ
- バックアップ方式:**
 - ☐ ローカルディスクディレクトリ: /var/backup
 - ☒ Samba
 - ワークグループ名: workgroup (NTドメイン名)
 - Windowsマシン名: winpc
 - 共有名: share
 - ユーザ名: user
 - パスワード: *****
- Buttons:** 設定 (highlighted with a red circle and an arrow), 即実行

最後に[設定]ボタンをクリック

バックアップ例2: Windowsマシンへの即時バックアップ(1/2)

即時バックアップは、定期バックアップの操作とほぼ同じです。異なる点は、Management Consoleの設定中以下の画面で「世代・スケジュール」の設定を行わないこと、最後に「即実行」ボタンをクリックすることです。

世代・スケジュールを
設定しない

■ 編集

説明: システム全ファイル(ユーザ環境復旧)

世代: 5

スケジュール:

- ☐ 毎日
- ☐ 毎週 日曜日
- ☐ 毎月 1 日
- ☒ バックアップしない

時刻: 0 時 0 分にバックアップ

バックアップ方式:

☐ ローカルディスクディレクトリ: /var/backup

☒ Samba

ワークグループ名: workgroup
(NTドメイン名)

Windowsマシン名: winpc

共有名: share

ユーザ名: user

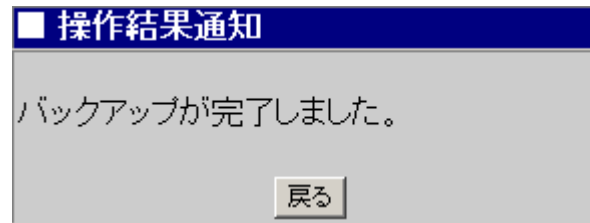
パスワード:

設定 即実行

最後に「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例2：Windowsマシンへの即時バックアップ(2/2)

「即実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



注意

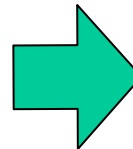
「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていませんので、必要であれば「各種ログファイル」を選択して同じ手順でバックアップを行う必要があります。

バックアップ例3: テープデバイスへの定期バックアップ(1/2)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



システム



バックアップリスト一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプूल	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
テープバックアップ 編集 リストア			バックアップしない

テープバックアップ

バックアップ / リストア

バックアップ例3: テープデバイスへの定期バックアップ(2/2)

以下の内容を入力して下さい。

テープデバイス名を指定する

テープデバイス

デバイス名

/dev/nst0

設定

世代・スケジュールの設定

例: 毎週月曜日の朝9:00 にバックアップをとる。

バックアップ

スケジュール: ☐ 毎日 ☒ 毎週 月曜日 ☐ 毎月 日 ☐ バックアップしない

時刻: 9 時 0 分にバックアップ

バックアップ対象

- ☒ システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
- ☐ システム、各種サーバの設定ファイル
- ☐ ユーザのホームディレクトリ
- ☐ メールスプール
- ☐ メーリングリスト
- ☐ 各種ログファイル
- ☐ ディレクトリ指定

設定 即実行

ここをチェックする

必要であればチェックする

最後に「設定」ボタンをクリック

バックアップ例4:テープデバイスへの即時バックアップ(1/3)

テープデバイスが正しく接続されていることを確認して、
Management Consoleから以下の操作を行って下さい。



システム

バックアップ / リストア

バックアップ/リストア一覧			
操作	説明	世代数	タイミング
バックアップ 編集 リストア	システム全ファイル(ユーザ環境復旧)	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	システム、各種サーバの設定ファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ユーザのホームディレクトリ	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メールスプール	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	メーリングリスト	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	各種ログファイル	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	ディレクトリ指定	5	バックアップしない
バックアップ 編集 リストア	テープバックアップ		バックアップしない

テープバックアップ

バックアップ例4: テープデバイスへの即時バックアップ(2/3)

バックアップを実行します。

テープデバイス名を指定する

■ テープデバイス

デバイス名

設定

このみチェックすればよい

■ バックアップ

スケジュール: ☐ 毎日
☒ 毎週
☐ 毎月
☐ バックアップしない

時刻: 時 分にバックアップ

バックアップ対象

- ☒ システム全ファイル(ユーザ環境復旧)
 - ☐ システム、各種サーバの設定ファイル
 - ☐ ユーザのホームディレクトリ
 - ☐ メールスプール
 - ☐ メーリングリスト
- ☐ 各種ログファイル
- ☐ ディレクトリ指定

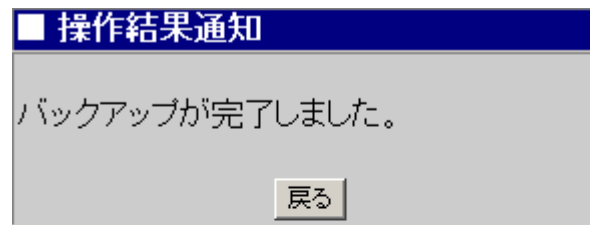
設定 即実行

必要であればチェックする

「即実行」ボタンをクリック

バックアップ例4：テープデバイスへの即時バックアップ(3/3)

「実行」ボタンをクリックすると、バックアップが開始され、正しく実行された場合は以下の操作結果が通知されます。



バックアップの補足事項(1/2)

1. 「各種ログファイル」のバックアップは、「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」に含まれていないので、必要に応じて「各種ログファイル」をバックアップする必要があります。
2. 「システム全ファイル(ユーザ環境復旧)」のバックアップは、
 - ・システム、各種サーバの設定ファイル
 - ・ユーザのホームディレクトリ
 - ・メールスプール
 - ・メーリングリスト

の項目をバックアップすることと同じ意味になります。

両方の項目を指定すると、二重にバックアップされますので領域/時間の無駄が発生します(動作上の問題はありません)。

ただし、ロードバランスクラスタ構成の場合、メールスプールとメーリングリストは含まれません。

バックアップの補足事項(2/2)

- 3 . ESMPRO関連の情報はバックアップされません(リストアによる動作が保証されていないためです)。
したがってESMPRO関連の設定については、システムの再インストール後、ユーザーズガイドに従い改めて行って下さい。
- 4 . バックアップデータのリストアを行う場合、バックアップ時点と同じアップデートモジュール適用状態である必要があります。バックアップを行う前にアップデートモジュール適用状況の確認を行い、適用状況をメモ用紙等に控えておいて下さい。